

角田市議会一般会議報告書

令和 8 年 8 月 2 6 日

角田市議会

議長 馬 場 道 晴 殿

教育厚生建設常任委員会

委員長 武 藤 広 一

開 催 日 時	令和 8 年 7 月 3 0 日（木）午後 1 時～午後 3 時 1 8 分
開 催 場 所	角田市市民センター 2 0 1 会議室
会 議 の 議 題	地域猫活動への理解とその課題について
議 会 で 対 応 した委員会名	教育厚生建設常任委員会
出 席 委 員 名	武藤広一委員長、戸村眞喜夫副委員長、齋藤克敏委員、 齋藤強委員、菅野マホ委員、堀田孝一委員、八島定雄委員、 渡邊誠委員
参 加 関 係 団 体 等 名	角田南町の猫を保護する会、横倉にゃんこの会、ほか
参加団体等 の 人 数	9 人
傍 聴 人 数	8 人
発 言 者 名	主 な 発 言 要 旨 等
	冒頭、馬場議長からの開会の挨拶の後、次第に沿って会議が進められた。 ■ 議題の趣旨説明等 地域猫活動への理解とその課題について（説明） 角田南町の猫を保護する会の坂田代表より「地域猫活動の現状」と、各団体より活動内容について説明を行った。

坂田英恵

街中に住む野良猫というのは、人から餌をもらわないと基本的に生きていけないという現状があるため、地域での人との共生について、やはりルールづくりが必要だと思う。

南町でも大きな問題となって地域全体で問題意識を持ったことで、5年程で整備ができつつあり、最近は他の地区からの相談が多くなっている。こうした現状を踏まえると、角田市全体で情報を共有して、啓蒙活動や制度整備を進める必要があると感じている。

【野良猫問題の前提】

- ・猫は、1回に5匹ぐらいを1年に数回出産するため、1匹の猫が1年で50匹とか、あっという間に増えてしまう。
- ・餌やりさんは、猫の保護だと思い、良かれと思って猫に餌をやりますが、その場が猫の見合いの場になってしまい、どんどん望まれない繁殖が起きてしまう。その結果、地域猫が増え、衛生環境上の悪化などに伴う住民トラブルが勃発してしまう。
- ・行政や保健所は、基本的に、繁殖を招いた人の自己責任として、現状解決してくれる窓口は基本的にないというのが現状。

【南町における野良猫問題の経緯】

- ・4年前に30匹の大量繁殖に伴う住民トラブルが発生したため、緊急的にボランティアで素人ながら活動を開始。
- ・仙南の猫保護団体「つながれ命！里親会」に相談し、これ以上増やさないための指導を受けた。
- ・TNR活動：「捕獲して、不妊手術をして、元の場所に戻す」。不妊手術をした猫は耳を切って、不妊手術したという印が付いた猫には餌をやっていいという地域のルールをつくる必要がある。
- ・TNRより、少しレベルが高いTNTA活動：「トラップして、手術をして、人慣れして、里親さんを探す」。非常に時間・労力・お金を使い、とっても大変なため、このTNTAを皆さんがやるということはほぼ不可能。まずは、角田市全体でTNRが広まって猫の異常な増殖にならないようにすることが必要。

【角田市全体の現状と課題】

- ・活動の始まりは、餌やりさんが困ったとか、地域住民のクレーム、介護の現場でのトラブル、そういうことで活動す

石井恵子	るという経緯が多いかなというふうに思っている。 ・不適切飼育の家庭に関しては、説明してもご理解いただけない。また、TNR、TNTAを知らない地域住民は、また餌をやっていると思ってしまう。 ・介護の現場とか高齢者宅では、制御できずに増え過ぎているが、この状況が外からは見えにくい。 ・他の地域からも、どうしたらいいかという相談を受けることが多く、野良猫問題を解決したいと思っている市民は多いが、何をどうしたらいいのかわからないという現状がある。 ・病気とか怪我をしている、あとは妊娠中出産後、あとは子猫とか、緊急保護が必要な猫は、飼育の保管場所や、医療費など、ボランティアの負担になっている。 ・住民は解決したいと思っているが相談する窓口がない、方法がわからない、道具がない、費用負担の問題があるため、制度の構築が必要。 【解決策の提案】 ・角田市全体で1回地域猫活動を実践する。期間限定であれば、やらなきゃいけないと思うのではないかな。行政を窓口にして、ボランティアや保護猫活動を推進しているクリニックなどを含んだ全体で実践する。 ・その実践を通して、行政がボランティアを育成する。 ・市議会や行政が必要性を確認して、予算を確保し、全体的な活動として、角田市行政主導の地域猫活動を実践する。 ・費用負担に関して、公益財団のどうぶつ基金で、地域の野良猫問題を解決するための無料の申請制度がある。行政が申請すると特に頭数制限はなく、行政が必要と判断した案件に対しては、どうぶつ基金経由で予算が出て、手術が基本的にほぼ無料でできる。 ・ボランティアだけで解決するには困難が多く、啓蒙活動や行政指導等の行政による支援が必要。 【その他】 ・既に千葉県市川市が、地域猫活動をボランティアと連携して助成金などを作っているので、この辺も参考にしてほしい。 ・5年ほど前に角田市に引っ越して来たときに、猫が外でウロウロしてるということにびっくりし、何とかしないといけないと思った。
------	--

	・ボランティア活動されているまるもふのケース（手術をして、人慣れさせる）を実践し、その後、様々な助言をいただきながら経験を積み、横倉にゃんこの会を結成した。 ・病院に連れて行って手術をすると、宮城県の助成金（1頭当たりメスが1万2,000円、オスが6,000円）が出ても、4、5万円を払うことになる。 ・こういった活動を地道にしている方がたくさんいる。また、こういう現状を行政に知ってほしい。 ・無責任な餌やりの方が多い。広報かくだ2月号に猫の飼育マナーを掲載していただいたが、引き続き、必要な情報、大事な情報を市民に知らせていただきたい。これは行政の力、市の周知、広報が必要だと思う。
大森マリナ	・猫とは関わりのない生活をしていたが、野良猫の糞尿トラブルがきっかけで、活動を始めるようになった。 ・ローラー作戦で全頭捕獲し、手術を実施。初めは大体60頭いたのが、今は10頭まで減り、うちの地区の周りには去勢していない猫はゼロとなった。 ・特にご高齢の方が、餌をやるが、手術が必要という考えがない。 ・手術の重要性や、お金がネックになっている。 ・どうしても猫が好きな方と、嫌いな方がいるため、そこの折り合いをつけるのが、ボランティアでは限界があり、問題である。 ・その折り合いをつけ、手術の重要性や費用面での支援を行政で行っていただきたい。
大浦友子	丸森町の起業型地域おこし協力隊として、丸森の猫神様を盛り上げるというミッションに取り組んでいる。その経験に基づき政策提言書を次のとおりまとめた。 【まるもふ猫神プロジェクトの活動】 ・人の責任によって生まれる不幸な猫を減らして、猫も人も安心して暮らせる地域をつくることを目指している。 ・猫を守ることだけを目的として活動しているわけではなく、保護した猫たちと里親さんとのマッチングの場を作りたくて、まるもふ堂という譲渡型保護猫カフェを丸森町小斎地区に作った。 ・猫カフェは、金土日の週3日やっていて、営業日には譲渡会を開催している。 ・いろんな事情で猫を飼えないけど、触れ合いたいという

	方々にもまるもふ堂に来ていただき、その利用料を支援に回すという仕組みを作った。 ・猫の不妊去勢手術専門クリニックを月2回開催し、通常メス猫の手術で大体4、5万円かかる手術を、1万円で手術している。飼い猫は対象外となり、増やさないための活動として、この料金でやっている。 【活動実績】 ・2024年1月から今年7月までの間で、累計避妊去勢手術は361頭になる。最初の年は90頭代だったが、年を重ねるごとに依頼数が増え、今年は6月の時点で200頭を超えている。 【野良猫問題は「猫の問題」ではなく「人の問題」】 ・野良猫が増える原因は共通していて、去勢手術をしない、飼育放棄、多頭飼育崩壊、高齢化による飼育困難、ペットショップなどでの衝動的な購入、ブリーダーなどの不適切な繁殖など、猫自身が社会問題を起こしているわけではなく、人間社会が生み出した課題が猫という形で表れている。 ・また、猫問題は、地域福祉の課題でもある。ご自身の病気で飼えなくなった、高齢になり世話ができなくなった、認知症で管理できなくなった、生活困窮で飼育を続けられないといった相談が多く寄せられている。 ・猫問題の背景には、高齢化、孤立、貧困化など地域福祉の課題が存在している。 【行政への要望】 ・TNR活動への公的支援。個人の資金ではなかなか進めて行けない。私も毎年、個人で70万円以上かかっているため、バックアップしてほしい。 ・避妊去勢手術助成の拡充 ・保護猫団体や保護猫活動者との連携強化 ・地域猫活動への支援 ・完全室内飼育の普及啓発。角田の街なかのような車が多いところは、道路を横切る可能性もあるため、できる限りおうちの中で飼育して欲しいことを周知して欲しい。 ・学校教育における命の教育。子どものうちから人間以外の命を大事にしていくという教育が必要ではないかと思う。 ・多頭飼育現場への早期介入制度。介護士や訪問介護士からも相談があるが、介護の現場に行くと、多頭飼育現場に遭
--	---

	遇することがある。私達と一緒に多頭飼い現場に行き、実際目にしたり、その場の匂いを体験していただきたい。経験してわかることもあると思う。30頭、40頭と増えてしまうと、なかなか解決できない。近所からクレームがあっても、どうすることもできない状態になっている。そのため、4、5頭とかの予備軍の段階でヘルパーや、民生委員から情報を吸い上げて、連携して情報を掴んでいくっていうのは、大事だと思う。 ・動物遺棄・虐待への厳罰化 ・行政、福祉、保健所、地域住民、保護猫活動者が連携した、早い段階で支援に繋げる体制の構築。市役所にも多分クレームとかがいっぱい入ると思うが、どうしたらいいのか、方法がわからないのではないかなと思う。また、行政から相談が来ることもあります。行政側から相談が来るということは、もう何かしらの手立てを作っていく段階ではないかなと思う。
小形美奈子	・保護猫活動をしている方は、多分、少なからずこれまでいろんな方からひどいことを言われたり、肩身の狭い思いをしながら、コツコツとTNRM活動をしていると思う。 ・多頭飼育している方や崩壊している方に、私達ボランティアの方から適正な飼育を指導することはなかなか難しく、なかなか聞き入れていただけないため、行政から指導をしていただけると、とても説得力があり、野良猫問題の解決にとっても大きな力になると思う。
鈴木初枝	・7匹の保護猫が、うちの中において、個人で全部3万円、4万円の手術代を出している。 ・補助金が出ることを全然知らなかったが、横倉にゃんこの会の石井さんから補助金（メス1匹が1万2,000円、オスは6,000円）が出ることを知り、本当に助かった。 ・市の方で、補助金のことを、広報かくだに載せて、みなさんに周知してほしい。
櫻庭美保	・ケアマネージャーや地域包括からご相談いただくことが結構あり、高齢者の方が、野良猫に餌やりをしている場面を幾度となく目の当たりにした。 ・そこで発生している問題が、糞尿だったり、鳴き声、あと繁殖そういったご近所トラブルっていうものが非常に多い。 ・最初、住民同士からのいろいろな話し合いで始まることは

菊地綾子	始まるが、收拾がつかず、行政へのクレームに繋がっているのが現状。 ・背景として、不妊去勢手術されないまま繁殖が繰り返されているという現実がある。 ・猫は繁殖力が高く、不妊去勢手術をしなければ短期間で数が増えてしまう。トラブルを最小限にするためにも、不妊去勢手術は必須だが、そこで重荷になっているのが、費用負担。ここが一番大きい問題。 ・私達は、全て自己負担で費用を払っている。猫を保護したときには病院へ連れて行き、猫AIDSや白血病検査、ワクチン、病気があれば治療代、フード代、様々な経費が多岐にわたる。1匹1万円程度かかることが多く、複数匹を保護すれば数万円単位の負担になる。 ・野良猫対策というのは猫だけの問題ではなく、住民の生活環境を守り、地域の安全に繋がるまちづくりに向けた課題である。 ・対策を施すことで、市民の方々の生活環境を守り、トラブルを減らし、命を守るまちづくりに繋がる。 【提案】 ・不妊去勢手術も含めたTNRへの助成制度 ・地域猫への理解 ・相談窓口の設置 ・行政・市民・保護活動者が連携した、角田市の地域猫対策モデルケースの構築。個人で保護活動をしている方の実態がわからない状態である。市に登録するなど、どれだけの方々が保護活動に関わっているのかという市全体で把握することも非常に重要な仕組みである。 ・ここ最近、角田市をはじめ、山元町、亘理町からの相談がものすごく多くなっている。 ・保護活動をしていると、行政から直接ご相談をいただいたこともあり、この猫問題は、既に行政が関わっていたかなきゃいけない段階（フェーズ）に入ってきているのではないかなと思われる。 ・譲渡の手段は、里親会、サイト、知人や前に譲渡した人の繋がり等、自力で譲渡している。 ・人慣れしてなかったり、AIDSキャリアがあったり、片目が潰れて癒着してちょっと見栄えが悪くて譲渡対象にならないというのが、譲渡されずに残っている。 ・費用負担について、ランニングコストや医療費用が、年間
------	--

	100万円弱かかっていることを、市民の皆さんも知らない。保護猫の問題は、ボランティアに丸投げなので、このような費用負担の状況を知っていただくため、啓発は絶対必要だろうと思う。 ・猫たちへの無責任な餌やりさんに、責任の所在をちゃんと啓発していかなければならないが、私達が説得できる人たちではない。そういった人たちを行政の力を借りて対応することが絶対的に大事である。 ・猫に餌やりを無責任にやったことをきつく、執拗に攻め立てると、動物虐待に繋がったり、山に遺棄したり、川に流したり、毒を入れた餌を食べさせたり、間違った方向に進んでしまう懸念がある。そのため、動物虐待の問題、犯罪になることもあわせて啓発していかなければならない。
坂田英恵	野良猫問題は、まちづくり・福祉・動物愛護、いろんな観点で問題が山積みです。これを機に、角田市全体で啓蒙活動、制度の構築がなされたらと願っている。
齋藤強委員	■ 質疑応答 地域猫活動への理解とその課題について（質疑応答） まず、この去勢や避妊に対して費用がかかるということで、県の方の獣医師会でメス1万2,000円、オス6,000円の補助と、どうぶつ基金の話があったが、避妊や去勢する費用はどういったところから捻出されているのか。
坂田英恵	私達の団体は、基本的に県の助成を使っているが、結構なお金がかかる。TNTAを行う際、あなたがやったことなのでちゃんと費用負担をしてくださいと、餌やりさんに出していただいている。どうしても餌やりさんが多頭飼育になる場合は、あとで寄附という形で里親さん候補の方に実費をいただいたり、私やメンバーのポケットマネーでやっている。 また、どうぶつ基金で、1回に5匹、10匹までチケットを取って、しんけん動物病院の先生にやっていただいている。 なお、行政がどうぶつ基金に申請すると、頭数制限なく無料でできるので、行政主体でやるのがいいんじゃないかなというふうには思っている。
大森マリナ	どうぶつ基金とは、どんなものを皆さんに知っていただきたいと思う。 基金は100%募金なので、基金が出してくださるチケッ

齋藤強委員	トというのは皆さんの善意からなるもの。限りがない、際限がないものではないということを、認識いただきたい。 費用面について、先ほどから多大な金額の自己負担をされているというお話があったが、この保護に関して、どういったやり方があるのか、教えていただきたい。 自宅で飼う方や、例えば空き家とかを借りて管理しながら飼っているのか、また、費用面に関して、餌代等はどのように捻出しているのかを、教えていただければと思う。
坂田英恵	完全ボランティアでやっている。 里親さんを探すために、かなり労力を費やして、サイトに出したり、譲渡会に出したり、ポスターを貼ったりしている。問題がある子たちはなかなか見つからないので、うちの猫と一緒に家の中でポケットマネーを出して飼っている。 ただ、市民提案型まちづくり事業に去年から応募したので、その保護猫に関しては、私たちの団体はそちらから出している。
菊地綾子	うちも一緒に、全ての費用は、全額100%自前です。 保護した子はできるだけ里親さんを見つ出して、次を入れるという形です。 ただ、春先だったり、子猫が生まれる時期は、ワースと子猫がやってくるんで、かなり我が家にいる頭数は流動的です。一気に里親さんを見つけ出せるときもあれば、そうじゃないときもあるので混雑しているときもある。
大森マリナ	私は、基本的に地区の周り、私が住んでいる辺りのみでの活動なので、新しく猫が来るということはなかなかない。 全頭去勢済みなので、保護した子も家族として生活をしている。当然私達が助け出して、一緒に暮らしている。例えば、目が見えなくなっている、歩けなくなっている、口の中の歯が全部抜けてしまっているとか、人の助けがないと生きていけないハンディキャップを抱えた子は、うちの家族になっている。 子猫を14頭とか保護した時があったが、その場合は、最後の1頭まで責任を持って育てて、ある程度3か月ぐらいまでなったら、信頼できる里親さんのもとへ送り出すということをしている。 100%私のお金でやっている。

大浦友子	個人でやっていた8年前のときは、自腹でやっていた。 3年前から任意団体を立ち上げたことで寄附が集まりやすくなったりとか、企業からのサポートを受けられる機会が増えてきたかなと思う。まるもふという猫カフェを始めたことで、その利益になった部分を医療費とかに充てることができ、まだゼロではないけど、自腹を切る部分の割合が減ってきた。 動物取扱業第1種、第2種があり、個人の方でも10匹以上抱えるときは第2種の登録が必要となる。私は第1種の方で、営利を目的として保護する登録をしている。 最初は結構叩かれることもあった。猫で金儲けしようとしてるとか。でも実際お金はかかるので、猫に使うのは、私は良いかなと思っている。
齋藤強委員	大変ご苦労されているというのは十分理解できた。 里親さんが決まっていくというのが、一番望ましいと感じるが、里親さんを見つける手段としては、いろんなやり方、ジモティーも拝見した。 例えば、ジモティーは、インターネットに画像だけ掲載して譲渡するのか、それともお会いしながら里親になってくれるのか、それ以外にどういった里親さんの募集に対しての活動をされているのかを教えていただきたい。
坂田英恵	本当にそこが一番苦労してるところです。 まずは、職場の同僚、近所の方、お友達、周りから探すが、だんだんそういう方たちが少なくなってくるので、その際にはジモティーを利用する。ジモティーは顔の見えない関係なので、分母が大きくなる傾向にあり、変な人たちもたくさんいる。 私達の団体では、まず広報担当がやり取りをして、私どもの活動内容、条件をお伝えし、本当に飼ってくださるという方とはLINEの交換、お電話で面談をする。信頼関係を築いて、それでも納得してくださる方としか交渉しない。1人と交渉するのに1週間ぐらいかかる。 住所交換するときはお互いの住所交換をするので、お互い信頼できる関係を築いてから会いに来ていただく。 トライアルの際はご自宅に伺って、自宅の状況を見て、それで1週間、2週間のトライアルで状況を全部やり取りをして、正式譲渡のときにまた伺って、という形でやっている。1件1件、本当に大変で、苦労をしてるところなんですけど、それをやらないと里親さんは見つからないので、そういうや

菊地綾子	り方をしている。 今、自宅に13匹いる。譲渡しようとしたが、人慣れが全くなくて、約1年うちの方において、やっと今、人慣れしてきた。成猫なので、子猫に比べると、貰い手が少なくなっている。 まずは、身内とか職場に声をかけたりするが、本当は譲渡会のような場所があるといいと思っている。ただ、会場を確保するのもすごく難しいし、猫たちにかかるストレスも心配です。 そのため、できれば角田市として譲渡会場の提供をやっていただけると、間違いない方が来るんじゃないかなと思う。行政にバックアップしていただけると、信頼度が高くなると思うので、できれば私達も、対面して譲渡したいというのが現実です。 メールのやり取りでは良さそうだなと思っても、実際会ってみると、おうちの状況がひどかったこともある。そのため、私達が出向いて確認をするようにしている。
大森マリナ	私もジモティーを利用させていただくが、ご家族様を決定する基準は非常に厳しく設けている。一度では猫を渡さずに何度か足を運んでいただく。そうすると大体お人柄がわかるので、その上で譲渡するようにしている。
大浦友子	私達は猫カフェという形で譲渡している。関連する機会をいかに増やせるかを考えてこういう仕組みにしている。 私達のところにいる猫だけではなくて、うちで引き取りをお断りした猫を個人でお世話している方々のバックアップとして、地元開催をボランティアメンバーと相談しているが、会場がない。町の施設は猫アレルギーに配慮しなきゃいけないとかもある。 そのため、まるもふの待合スペースを片付けて、そこで猫の譲渡を受けたい方がいつでも来れるように、そのスペースを無料で開放するようにしていけたらいいのかなと、試行錯誤しているところです。
坂田英恵	つながれ命！里親会は、名取のホームセンタームサシとか、あとは村田のサテライト宮城競輪場外車券売場でやるのでおそらく会場は限られてるかと思うんですけど、角田でそういう活動が始まると、人を呼び込むとか動物愛護精神とかその辺、まちのPRにもなるのかなというふうにはいつ

菅野マホ委員	も考えている。 藤尾地区の方からお電話をいただいて、生活環境課の方々と一緒にそのお宅に伺ってみました、20匹ぐらいいる。タイヤを売ってるんですけど、そのタイヤの中に猫が生まれたり、死んじゃったり、商品を引っこいたりして商品にならなくなったり、そんなことで困ってるということでした。 TNRの支援とか、行政の理解、行政の窓口をつくる、関係者の連絡を密にするとか、すごく大切だと思う。 その藤尾地区が、今20匹ほどいるんですけども、その飼っている本人がトラック運転手でなかなか会えない。生活環境課も行ってるけどなかなか会えないということでどんどん増えているということなんです。 こういうときに、どのようなお手伝いがしていただけるのかなというふうに思う。
坂田英恵	これ以上増やさないのは全頭飼育して手術すればこれ以上は増えないということになる。ただ、その20匹をどうするかというのは、預かりボランティアがいないと難しいことです。本当であれば、やった方が家に全部入れてこれ以上増やさないということをするべきなんですけど、おそらくトラック運転手で普段いないので、それもままならないというところですね。その20匹をこの地域からどう保護するかどうかは具体的なアイディアは言えないんですが、こういうことが一番の問題なので、共有するしかない。 また、梶賀の方も同じことになってまして、それは4匹なので、親戚中に全部預かってもらうことにするんですが、こういうふうに猫が増えてしまうと本当に大変なことになってしまうんだっていうのが、一番の問題です。
大森マリナ	この件についてなんですが、一応引き取る人が必要だっていうのはわかるんですが、まもなく秋がやってきます。繁殖シーズンです。今20匹いらっしゃるんでしたら、おそらく、来年の春、もっと頭数が増えてるので、まずは去勢不妊手術をしないと倍になってしまうかなっていうのがありますので、まずは繁殖を止めないといけないのではないかなと思う。おそらくこの春開けたらまた増えますし、春が終わったら夏にはもっと増えますので、100頭あつという間に超えると思う。 おのずと出てくるのは処分するっていう問題かと思うが、タイヤ屋が今すごい困っていらっしゃるでしょうし、今ここ

菅野マホ委員	で何とかしないと。まずは去勢避妊手術が必要かなと思う。 結局、生活環境課の方で、その方にまず会えないのであれば、紙を入れて去勢しますよっていうふうにできるのであれば、確認をして、何とか去勢をするっていう方法しかないのかなと思うんですけど、どうでしょうか？生活環境課。
玉手 生活環境課長	我々が行って捕獲して去勢っていうのは、現状ではちょっと難しいかなというふうに思っている。
大浦友子	喫緊の方法としては、現実問題ちゃんとできるかはまた別ですけど、方法としては男女分ける。ゲージで管理するなり、物理的に交尾ができないようにする。 あとはタイヤが傷つくのが問題なのであれば、カバーや柵を設け、そのところに何かしらの助成支援や対策をしていただく。 餌をあげなければ、その場から猫がいなくなるっていうふうに思う方が多いですけど、縄張りで生きているのでそう簡単にはいなくなるらない。 そういう現場にゲージを貸し出したり、何とか管理をお願いするというイメージです。 どうぶつ基金の行政枠の話があったと思いますが、私は丸森町で実際に行政枠を使って、去勢手術に協力したことがある。ただ、行政枠を使うには保健所が何か月も調査をして、飼い主と対面するという時間がかかるので、次の繁殖を止めることができないと思う。
大森マリナ	■ 意見交換 地域猫活動への理解とその課題について（意見交換） しんけん動物病院や、にじのはしスペイクリニックは、宮城県内どこでも来てくださり、両方とも移動手術車の中で手術をしてくれる。そして我々ボランティアや、地域の方で捕獲作戦をする。早い間に一気にやるのが大切なところですので、これしか解決されないんじゃないかなと思う。 ただそうなってくると、移動こちらまで来ていただく分の交通費、あとは1頭ずつの手術の費用とかが問題になってくるかと、そこさえクリアすれば、それができるのではないかなと思う。
吉田和生 藤尾3区	藤尾3区では、前々からの問題で、困っているところである。実際に職員にいろいろ手伝ってもらってるんですが、未

行政区長	だに解決できないっていう状態です。 この猫の問題が起きたが、なかなか私自身、周りの方々もそうですが、会えなくて、話するときもなく、連絡の取りようがないような状態が続いている。こちらからもポストを利用して手紙を入れるものの、全然会えないし、連絡もないような状態で一方通行になっている。 今後も引き続き、その猫の問題に対して、お願いしていくしかないんですけども、早急な対応ということや助成の問題もありましたけども、今実際に考えているのは、なかなか厳しいものがあるなというふうに思っている。今日皆さんにいろいろお話をいただいて、そういったところをちょっと参考にしながらと思っている。現状そういったところでした。
坂田英恵	これを機に、行政として行動を始めるということは、今年度は無理な感じなんですか。
玉手 生活環境課長	補正予算とかもあるので、無理だということではないと思う。皆様からいろいろご意見いただいたので、可能な限り実現していきたいなというふうに思っている。 ただ、すぐできるもの、ちょっと時間がかかるもの、時間がかかるもの、行政では難しいもの、いろいろあるので、その辺は検討させていただきたいと思っている。 また、例えば周知については、広報かくだ2月に掲載したんですけども、今後も定期的に、皆様の活動も含めて周知していくというのは、比較的早めに対応することは可能ではないかなというふうに思っている。 予算の面につきましては、検討させてください。
本間英介	皆さんのお話を聞いて、ボランティアは本当に自己負担をしながら、苦労しながら、お互いに連携をとってここまでやってきたわけで、行政や市議会に実情をわかっていただきたいと思う。 限定でもいいので、行政を窓口とした勉強会や、手術についてみんなで理解をするという機会を増やし、作っていただければと思う。 8月23日の日曜日に横倉で、手術する前に10時ぐらいからセミナーがあって、しんけん動物病院の先生が説明してくれる機会がある。こういう場に行ったり、別途、先生を呼んで避妊手術についてを、行政と議会議員で興味がある方に呼びかけて、やり方について勉強するといいんじゃないかと思う。

	皆さんの話を聞いて、金銭面で非常に大変だということなので、是非どこまでできるか検討していただきたいと思う。 動物を捕まえるのに、ボランティア自己負担で檻を購入しているんですが、必要な方お互いに連携して貸し出したりしてやっている。今、行政で殺虫剤なんかを貸し出しなんかしてるようですが、それと同じように猫の捕獲器とかを購入していただいて、希望者に貸し出すとか、ちょっとしたことからでもボランティアは助かるんじゃないかと思う。 皆さんの話聞いて、もうボランティアは、精一杯なところで、ギリギリのところでやっている。いろいろご相談をいただいているんですけど対応しきれないので、行政で窓口を作っていただいて、話を聞いていただいて、適切なところへ話を振っていただくような形をとっていただければ、我々の事情を考えていただいて、これから検討していただければと思う。
大森マリナ	地域の方に言われたのが、この猫たちは、何が手術した証なのかと言われたんです。手術したのと、そうでないものを見分けるか、そこをもうちょっと皆さんにきちんと知っていただくこと、耳がその見分けるポイントなんだよっていうようなことを皆さんに知っていただくことが重要かなと思う。
玉手 生活環境課長	広報かくだ2月号でも紹介はしてるんですが、何回も周知していきたいと思う。
石井恵子	例えば、毎月、広報かくだの誌面の枠を南町の猫を保護する会の分として確保してもらい、里親募集してますよっていう猫の紹介や、うちのにゃんこ紹介のような誌面を掲載したらどうか。市民の方から集めてはどうか。
玉手 生活環境課長	ここではお答えできないので、内部で検討させていただきたいと思う。
石井恵子	宮城県の助成金は、個人で申請すると年間10頭程度で、限度がある。団体であれば無制限でできるそうなんですが、それには条件があるらしくて、そこそこ大きな団体ならできるのかもしれないけど、私にはちょっとそれができない。 私のように個人で必死になってやっている身からすると、2か月で15・16頭になるので、年間で10頭はかなり厳しい。ですからその県の方にはお願いはできないでしょうか。私みたいなちょっと小さな団体でも制限なしで申請ができ

戸村眞喜夫 副委員長	ないか。 角田市でどのくらい野良猫が存在するのか、また、角田市内で地域猫活動をやられている方が、団体の方と個人の方でどのくらいいるのか、私どもは、その辺の全体像をつかむ必要があるのかなというように感じている。 その上で、ほとんどボランティアでやってらっしゃる方々ですけれども、資金が枯渇すると潰れて、大体それで終わりにになってしまう。そういうことにならないように、持続可能な方法が必要だと思う。角田市の市民提案型まちづくり事業を個人も団体も行き渡るような感じになれば、少しでも手助けになるんじゃないかと思う。 地域猫活動の全体の実態がわかるように、例えば登録制度みたいなものがあれば、市の方としても多分動きやすいっていうんですかね、必要なんじゃないかなと思うが、その辺どうなのか。
坂田英恵	区ごとに手術して欲しいものをしっかり登録して、そこに対して行政が動けば問題は解決するのではと思う。南町は私の全部ポケットマネーで、藤尾9区は大森さんのポケットマネーでやって、こういう人がいれば動くんですけど。 藤尾3区の20匹の具体的な事例があるので、これをみんなで解決していくことが必要かなと聞いてて思う。
本間英介	ボランティアの登録のお話があったんですけど、一度、生活環境課の方で、ボランティアをやっている方の実態を調査して、それに対して具体的に支援をどういう形ですか、一つの手がかりになるんじゃないかと思う。 また、市民提案型まちづくり事業の補助を申請するというお話があったんですけど、地域活動に対するボランティアに対する資金であって、条件が厳しいんです。生活環境課とかの窓口が実態を把握し、それに応じた市の予算を取っていただくことをしないと、この問題は解決しないと思う。 これは、あくまでも一種の個人的な目の前の問題としてやっているんで、それぞれの方々が自分の問題として捉えていただきたい、と思う。
武藤広一 委員長	皆様からいただきましたご意見を、私なりに理解したつもりでいる。各委員も、本当に大変なんだなと感じたと思う。 本日皆様からいただいたご意見をもとに、今後、本委員会として課題解決に向けた検討を行ってまいりたいと思うの

	で、今後ともどうぞご指導のほどよろしくお願いしたいと思う。 ※ 堀田 孝一 副議長が閉会の挨拶を行い、閉会。 以上
--	--

角 田 市 議 会 一 般 会 議

日 時：令和 8 年 7 月 3 0 日（木）

午後 1 時

場 所：角田市市民センター

2 0 1 会議室

次 第

- 1 開会の挨拶(13:00)
議長 馬場道晴
- 2 出席者紹介(13:05)
- 3 議題の趣旨説明等(13:15)
◆地域猫活動への理解とその課題について
- 4 質疑応答(14:00)
- 5 意見交換(14:30)
- 6 閉会の挨拶(14:55)
副議長 堀田孝一

角田市議会一般会議 出席者名簿 (団体等・角田市議会・角田市)

団体等

No.	氏 名	役 職 名
1	坂 田 英 恵 (さかた はなえ)	角田南町の猫を保護する会 代表
2	本 間 英 介 (ほんま えいすけ)	角田南町の猫を保護する会 会計
3	石 井 恵 子 (いしい けいこ)	横倉にゃんこの会 会長
4	大 森 マリナ (おおもり まりな)	藤尾地区ボランティア
5	大 浦 友 子 (おおうら ゆうこ)	まるもふ 代表
6	小 形 美奈子 (おがた みなこ)	個人ボランティア
7	鈴 木 初 枝 (すずき はつえ)	個人ボランティア
8	櫻 庭 美 保 (さくらば みほ)	個人ボランティア
9	菊 地 綾 子 (きくち あやこ)	個人ボランティア

角田市議会

No.	氏 名	役 職 名
1	馬 場 道 晴 (ばば みちはる)	議長
2	武 藤 広 一 (むとう こういち)	教育厚生建設常任委員会 委員長 ※ 司会
3	戸 村 眞喜夫 (とむら まきお)	教育厚生建設常任委員会 副委員長 ※ 記録者
4	齋 藤 克 敏 (さいとう かつとし)	教育厚生建設常任委員会 委員
5	齋 藤 強 (さいとう つよし)	教育厚生建設常任委員会 委員
6	菅 野 マ ホ (かんの まほ)	教育厚生建設常任委員会 委員
7	堀 田 孝 一 (ほった こういち)	教育厚生建設常任委員会 委員 副議長
8	八 島 定 雄 (やしま さだお)	教育厚生建設常任委員会 委員
9	渡 邊 誠 (わたなべ まこと)	教育厚生建設常任委員会 委員

角田市

No.	氏 名	役 職 名
1	玉 手 良 宏 (たまた よしひろ)	生活環境課長
2	佐久間 勉 (さくま つとむ)	生活環境課 課長補佐
3	伊 藤 大 介 (いとう だいすけ)	生活環境課 副主幹(兼)生活環境係長

角田市議会事務局

No.	氏 名	役 職 名
1	穴 戸 徹 (ししど とおる)	議会事務局 事務局長
2	高 橋 寿 幸 (たかはし としゆき)	議会事務局 事務局次長
3	中 村 由 佳 (なかむら ゆか)	議会事務局 庶務議事係長
4	牛 澤 実 智 (うしざわ みち)	議会事務局 書記

